

ECN200 経済政策論

2年 3,4クォーター

担当教員 飯田 健志

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 木曜日・2時限

授業概要

本講義の目標は、経済政策の基礎理論を習得することである。まず、政府介入の必要性について理解するために、市場の失敗について、いくつかの例を紹介する。そして、市場の失敗の一例として環境問題を取りあげ、政府が環境問題を解決するための政策について学習する。はじめに、環境問題を解決するための政策手段についていくつか紹介し、具体的な環境問題として、地域に密着した環境問題であるごみ問題と国際的な視点が必要となる地球温暖化問題を取りあげる。本講義では、これらの環境問題を解決するために国や地方自治体がおこなう政策やその効果および社会的帰結について、経済政策の基礎理論を用いて理解を深める。

到達目標

学生は、

- (1) 政府介入の必要性について理解する
- (2) 自分が住んでいる町のごみ問題や廃棄物政策について理解する
- (3) 温暖化問題に対する各国の取り組みについて理解する
- (4) 温暖化問題における国際協調のむずかしさ、およびその解決策について考察する

期待される効果

経済学的な考え方が身に付く

身近な経済問題について、経済政策の基礎理論を用いて議論できるようになる

先修科目

本講義で扱う内容はミクロ経済学の応用分野であるため、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。

教科書・参考資料等

特定のテキストは使用しません。

参考文献

栗山浩一・馬奈木俊介(2012) 『第2版 環境経済学をつかむ』有斐閣

土居文朗(2002) 『入門 公共経済学』日本評論社

日引聡・有村俊秀(2002) 『入門 環境経済学』中公新書

授業の方法

板書を中心に講義を進めるが、必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績

20% 課題

80% 期末試験

授業スケジュール

第1回：なぜ政府が必要か

市場経済の役割と市場の失敗(市場経済が機能しないケース)について、いくつかの例を用いて解説する。そのうえで政府の役割について学ぶ。

第2回：公共財の供給量はどのようにして決めればよいか

市場の失敗として公共財をとりあげ、公共財の定義および公共財の性質によって発生するフリーライダー問題について解説する。そのうえで、どのようにすれば効率的に公共財を供給できるか考える。

第3回：公共料金はどうやって決められているか

市場の失敗として電気、ガス、水道等の費用逓減産業における自然独占の問題をとりあげ、市場の失敗を是正するための価格(公共料金)の決め方について学ぶ。

第4回：なぜ環境問題が起きるのか

市場の失敗として環境問題(外部性)をとりあげ、なぜ環境問題が起きるのか、経済学的な観点から考える。

第5回：直接規制による環境問題の解決

第5回～第7回を通じて、環境問題を解決するための政策手段について解説する。

第5回では、伝統的に用いられる環境政策として命令・統制型である直接規制について、メリット、デメリット、そして社会に与える影響について考える。

第6回：インセンティブを用いた環境問題の解決

市場メカニズムを用いる環境政策として、課税と補助金について解説し、これらの政策のメリット、デメリット、そして、社会に与える影響について考える。また、第5回で学んだ直接規制との比較をおこなう

第7回：環境問題は交渉によって解決できるか

政府介入による解決ではなく、利害関係者のみによる環境問題の解決について考える。また、利害関係者間での交渉による解決方法の応用として、排出量取引についても解説する。

第8回：増えつづけるごみと処分場の不足

生活に密接した環境問題としてごみ問題をとりあげ、日本や福井県のごみ排出量の現状について解説し、ごみの排出量が増加することでどのような問題が発生するのか考える。

第9回：ごみ処理手数料の有料化は有効か

ごみ問題の解決方法として、ごみ処理手数料の有料化をとりあげ、有料化の方法やその効果について考える。

第10回：不法投棄はどうやって防げばよいか

ごみ処理手数料有料制の負の側面として発生する不法投棄の問題について解説し、どうすれば不法投棄を防ぐことができるか考える。

第11回：望ましい廃棄物政策のあり方

ごみ処理手数料の有料化や不法投棄の問題を考慮した上で、ごみの排出量および不法投棄を抑制するためには、どのような廃棄物政策が望ましいか考える。また、地方自治体の取り組みについても紹介する。

第12回：温暖化問題とは

地球温暖化問題について、経済成長と温暖化の関係や温暖化が社会に及ぼす影響について解説する。

第13回：京都議定書と京都メカニズム

地球温暖化問題を解決するための国際的な枠組みである京都議定書について解説し、なぜ温暖化問題を解決するために国際的な枠組みが必要なのか考える。

第14回：炭素税か排出量取引か

温暖化問題を解決するための手段として炭素税と排出量取引の比較をおこなう。また、排出量取引の成功事例としてアメリカ二酸化硫黄排出承認証取引制度を紹介する。

第15回：各国の温暖化対策と国際協調のむずかしさ

温暖化問題に対する各国の取り組みについて紹介し、今現在どのような問題が存在し、今後どのように対応していくべきか考える。

事前・事後学習

予習：参考図書の該当する章を予習してくること（1時間程度）

復習：毎回課題を課すので、課題を解きながら、授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）